

公立学校情報機器整備事業に係る各種計画について

令和 7 年 7 月

墨田区教育委員会

目 次

- 端末整備・更新計画 P 3
- ネットワーク整備計画 P 4
- 校務 DX 計画 P 5
- 1 人 1 台端末の利活用に係る計画 P 6

端末整備・更新計画

	令和 6 年度	令和 7 年度	令和 8 年度	令和 9 年度	令和 10 年度
児童・生徒数*	14,477	14,483	14,389	14,299	14,148
予備機を含む 整備上限台数	16,648	1,320	1,212	1,108	935
整備台数 (予備機除く)	14,477	0	0	0	0
のうち 基金事業によるもの	14,477	0	0	0	0
累積更新率	100.0	100.0	100.6	101.2	102.3
予備機整備台数	858	0	0	0	0
のうち 基金事業によるもの	858	0	0	0	0
予備機整備率	5.9	5.9	5.9	5.9	5.9

*出展（教育委員会事務局学級数変遷表より）

（端末の整備・更新計画の考え方）

1 GIGA 第 1 期の整備

GIGA 第 1 期は、4 年間のリース方式（令和 3 年 1 月～令和 6 年 12 月）により整備し、今年度端末等の補償期間が終了することに伴い、GIGA 第 2 期の端末を整備（令和 7 年 1 月～令和 10 年 12 月）する。

2 更新計画の考え方

令和 7 年 5 月 1 日現在の児童・生徒数増減予測を基に、令和 10 年度までの更新計画を改定した。

（更新対象端末のリユース、リサイクル、処分について）

1 対象台数：14,700 台

2 処分方法：残価設定型リースを採用しているため、処分等は全台リース会社が行う。

3 端末のデータの消去方法：処分事業者へ委託する。

4 スケジュール：令和 7 年 1 月以降順次、14,700 台をリース会社へ引き渡し予定。

5 その他特記事項：なし

ネットワーク整備計画

1 必要なネットワーク速度が確保できている学校数、総学校数に占める割合（％）

区内小・中学校 35 校中 35 校（100％）

ただし、特別教室においては、必要なネットワーク速度が確保できているものの、旧型の無線アクセスポイント（以下、無線 AP という。）を使用していることから、時折、通信が不安定になる課題がみられた。

2 必要なネットワーク速度の確保に向けたスケジュール

（１）ネットワークアセスメントによる課題特定のスケジュール

令和 4 年 8 月に保守事業者及び無線機器事業者と現場調査し、旧型無線 AP を設置している特別教室では、多台数同時接続時にネットワークが不安定になることを特定した。

（２）ネットワークアセスメントを踏まえた改善スケジュール

現在設置している無線 AP の性能が不足しており、授業で児童・生徒が同時に端末を使用すると接続が不安定となるので、該当無線 AP を順次更新する。

（３）ネットワークアセスメントの実施等により、既に解決すべき課題が明らかになっている当該課題の解決の方法と実施スケジュール

特別教室の無線 AP 更新スケジュール（予定）

令和 6 年度 18 校（小学校 13 校、中学校 5 校）

令和 7 年度 17 校（小学校 12 校、中学校 5 校）

校務 DX 計画

1 クラウドツールの利用

令和 2 年度から汎用クラウドツールである Microsoft365 を導入し、教員間のコミュニケーション、データのやり取り等をデジタル化した。

今後も引き続き利用していく。

2 FAX での送受信及び押印の見直し

(1) FAX での送受信の見直し

クラウドツールの利用をベースに、令和 7 年度以降、一般教員等に外部メールの送受信権限を付与することを検討していく。

(2) 押印の見直し

令和 5 年度に卒業証書の押印を刷込み式に変更、令和 6 年度は修了証の押印を電子化し、今後も各種帳票類の押印を見直す。

3 校務支援システムへの名簿情報の不必要な手入力作業の一掃

小学校 1 年生のデータを学齢簿から校務支援システムに直接取り込むことで、データの手入力作業を省略した。

今後は、校務支援システムから他システムへの名簿情報の連携を検討していく。

4 次世代校務支援システムへの検討状況

東京都による共同調達の動向を注視しながら、適切なタイミングでクラウドベースの次世代の校務支援システムへの移行を目指す。

1 人 1 台端末の利活用に係る計画

- 1 1 人 1 台端末を始めとする ICT 環境によって実現を目指す学びの姿
「すみだ GIGA スクール構想」授業改善ロードマップ～ステップ 2 を目指して～（P10 参照）より、各段階における学びの姿について
- (1) ステップ 1 「いつでも・どこでも」1 人 1 台端末を使って学ぶ姿
 - ア 児童・生徒が検索機能や教科書のデジタルコンテンツを活用し、疑問や調べたい内容について主体的に調べる姿
 - イ 授業支援アプリケーション（以下、アプリという。）で共有された他者の意見を参考にし、自己の考えを他者と共有しながら自分の考えを深化する姿
 - ウ 思考ツールや共同編集機能等を活用し、他者と協働的に学びに取り組む姿
 - エ プレゼンテーションソフトを活用し、創作活動や発表等、学んだことを活かした表現活動に取り組む姿
 - オ 授業時間外に、学習支援アプリで十分に理解できなかった課題の記録を振り返ったり、発展問題に取り組んだりする姿
- * ステップ 1 で、1 人 1 台端末を利活用し、学ぶ習慣が身に付き、各教科・領域や特別活動、授業時間外で主体的に改題に取り組んだり、調べたりすることが各学習活動で、全体としてできるようになったことを踏まえ、どの教科でも学びを更に深めていくために、グループ学習を効果的に取り入れながら以下、(2) ステップ 2、(3) ステップ 3 の取組を行っていく。
- (2) ステップ 2 「どの教科でも」、学びを深めるために効果的に活用する姿
 - 一連の活動に連続性を持ちながら取り組むことで思考を深め、知識の定着を図る姿
 - 「個人で調査する」→「調査したことをグループで共有する」→「共有した内容を基に自分の考えを振り返る」→「自分の考えをより深め、次の課題につなげる」
- (3) ステップ 3 教科等の学びをつなぎ、社会問題等の解決策を考える姿
 - 問題発見・解決能力、言語能力、プログラミング的思考、情報モラル等の情報活用能力など、各教科等で習得した学習の基盤となる資質・能力を発揮しながら、実生活につながる課題の解決に取り組む姿

2 GIGA 第 1 期の総括

(1) 端末

GIGA 第 1 期は、既に教員が先行して iPad を活用したデジタル教育の研究を推進していたことから、児童・生徒が活用する端末機として iPad を採用した。第 1 期の総括として、学校現場からは、操作性や動作スピードに加え、特に授業を停滞させない故障率の低さに優れているとの意見が多くあり、GIGA 第 2 期も iPad 端末の継続について強い要望がある。

ただし、増加する教育アプリのインストールや定期的な OS アップデート等に対応するため、ストレージ容量の増加が課題となっているほか、学校によっては予備機が不

足していることで、1人1台端末を活用した教育の継続に一部支障をきたすなどの問題があるため、さらなる予備機の確保がGIGA第2期の課題となっている。

(2) 端末付属品

ア キーボード付きカバー

小学校4年生以上の端末には、キーボード付きカバーを整備したが、小学校1～3年生には、キーボードの必要性が低いと思われたことから、重量の軽減の観点も踏まえ、キーボード付きカバーの整備を見送った。

しかし、この間の1人1台端末の活用の広がりから、学習活動を円滑に進めるために基本的なキーボード操作を身に付け、ステップ2の定着を目指し、GIGA第2期では、小学校1～3年生に対してもキーボード付きカバーを整備する。

イ タッチペン

GIGA第1期では、全学年でタッチペンの整備を行わなかったが、一部の児童・生徒は日常的にタッチペンを使用して学習していることや、デジタル教科書の普及に伴い、今後、さらなるデジタル学習の広がりなど、書き込みの機会の増加が想定されているため、GIGA第2期では全児童・生徒にタッチペンを整備する。

ウ 学校内充電設備

各クラスに最大で10台まで充電可能な充電ボックスを配備している。確かな学力の定着を推進するため、GIGA端末を利用した持ち帰り学習を推奨していることから、学校内での充電を必要とする児童・生徒は少なく、現状で学校内充電設備の能力は充足されている状況である。

(3) ネットワーク

普通教室は、十分なネットワーク速度を確保しているが、特別教室では、多台数を同時接続すると通信が不安定となる旧型の無線APが設置されていることから、安定した通信環境を確保するために、該当の無線APを順次更新していく必要がある。

(4) ICT 支援員

各学校へ、週2回ICT支援員を派遣し、端末を活用した授業支援や教員スキル等に応じた、きめ細かな操作、技術支援を行っている。年々高度化していくデジタル教材や授業に合わせた教員のスキル向上の支援について、学校現場からは継続の要望が多くあることから、引き続き支援員の派遣を実施していく必要がある。

(5) 授業での活用

インターネット検索による調べ学習や、カメラ機能を活用した観察、授業支援アプリでの意見の共有、情報の整理、共同編集等が行われるなど、授業で1人1台端末が効果的に活用されている。

また、教員間や学校間で1人1台端末の活用が異なることなく、同様に活用ができるよう、GIGA第2期では、教員の端末活用スキルの平準化のため、教員への研修等を積極的に実施していく必要がある。

(6) 委員会・クラブ活動での活用

動画や画像による活動内容の記録・配信や、文書作成ソフトを活用した原稿の作成等に活用しており、会議や活動の活性化に寄与している。

(7) 家庭学習での活用

学習支援アプリを活用して基礎的な学習の反復練習や、次回の授業に向けての調べ学習、予習に活用している。家庭学習の充実を図るため、引き続き家庭での活用を推進していく必要がある。

(8) 学びの保障での活用

不登校など長期欠席等の児童・生徒を対象としたオンライン授業の配信や、*バーチャル・ラーニング・プラットフォームでの支援、教科書等の翻訳機能を活用した外国人児童・生徒等の支援に活用している。今後は、課題となっている、不登校など長期欠席等の児童・生徒に対して、さらなる学びの保障の充実を図っていく必要がある。

*バーチャル・ラーニング・プラットフォーム

東京都教育委員会が、日本語指導が必要な子どもや不登校の子どもたちの居場所・学びの場として、仮想空間上に「バーチャル・ラーニング・プラットフォーム」を用意したもの。

(9) 教員の負担軽減のための活用

出欠連絡システムを活用して児童・生徒の出欠情報の集約や SNS による教育相談 に活用し、勤務時間の軽減に寄与した。引き続き、デジタルを活用した教員の負担軽減策を講じていく必要がある。

(10) 授業支援アプリ

写真や提出物の送付機能を用いることで、どの授業でも日常的に使用している。

(11) 学習アプリ

授業中及び家庭学習で各単元の復習等で利用し、問題配信や解答状況の把握の機能等を使って児童・生徒 1 人ひとりの理解度向上に役立てた。引き続き学習アプリを活用し、これまで以上に「個別最適な学び」を推進していく必要がある。

(12) ICT を活用した授業改善について

「すみだ GIGA スクール構想」 授業改善ロードマップ ～ ステップ 2 を目指して～の達成度は、ステップ 0 及び 1 はクリアし、ステップ 2 の定着に取り組んでいる。GIGA 第 2 期は、「どの教科でも」学びを深めるために効果的な活用をできるようにする必要がある。

3 1 人 1 台端末の利活用方策

(1) 1 人 1 台端末の積極的活用

ア 教員の研修

教員が毎年度 ICT 研修を受講できるよう研修機会を確保することや 1 人 1 台端末の活用に特化した授業研究研修の継続、また、学校内で教員が受講した ICT 研修を水平展開することで、教員の端末活用スキルを向上させる。

イ ICT 支援員の配置

1 人 1 台端末の活用を支援する ICT 支援員を各校週 2 回配置し、教員のサポートと授業支援を引き続き行う。

ウ 1 人 1 台端末の積極的活用の推進

全教科に共通する端末活用の方法を研修会等で紹介し、実践の普及啓発を図る。

また、公開授業等で研究成果を区内の小・中学校に周知するほか、指導主事が、小・中学校の教育研究会や学校訪問時に、端末の効果的な活用に関する指導・助言を行うことで、教員 1 人 1 台端末の活用スキルを高める。

エ デジタル教科書の実践的な活用

研修でデジタル教科書の使い方を扱い、教員が実践的に活用できるようにする。

(2) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

ア 児童・生徒が自分で調べる場面

インターネット検索やカメラ機能を活用した調査や観察、記録を行う。

イ 児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面

授業支援アプリの共同編集機能やアプリを活用した効率的な制作活動を行う。

ウ 教職員と児童・生徒がやりとりする場面

授業支援アプリを活用した意見の共有、情報の整理、課題の受け渡しを行う。

エ 児童・生徒同士がやりとりする場面

個人→グループ→全体→個人といった「グループ学習を核とした学習過程」の中で、意見の交流、共有、表現活動を行う。

オ 児童・生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面

学習アプリを活用した基礎的な学習の反復練習を行う。

(3) 学びの保障

ア 不登校児童・生徒への支援

不登校や長期欠席等の児童・生徒を対象に、オンライン授業に参加できる環境を引き続き整備する。

イ 児童・生徒への端末を活用した教育相談

SNS 相談を活用した教育相談体制の一層の活用を促す。

ウ 外国人児童・生徒に対する学習活動等の支援

インターネットの翻訳機能を使用し、東京都教育委員会が発行の「たのしいがっこう」のデジタル教科書の活用や文部科学省の帰国・外国人児童・生徒教育のためのサイト「かすたねっと」を活用していく。

エ 障害のある児童・生徒や病気療養児等、特別な支援を要する児童・生徒の実態等に応じた支援

希望する児童・生徒にオンライン授業に参加できる環境を引き続き整備する。

「すみだGIGAスクール構想」授業改善ロードマップ ～ ステップ2を目指して ～

令和4年5月
墨田区教育委員会事務局指導課

＜すみだGIGAスクールのステップ＞



＜ステップ2の目標と学びの概念図＞



＜ステップ2の目標達成に向けた学習の過程＞

